

質問意見総括表
(第 1 回技術検討会)

令和 7 年 1 月 2 4 日

質問・意見総括表(令和6年11月28日 令和6年度 第1回北陸農政局農業農村整備事業等評価に係る技術検討会(補助事業))

	資料及び地区名	ページ	質 問 ・ 意 見		第1回技術検討会における回答	第2回技術検討会における回答
			御発言者	内 容		
1	資料3 女川地区	3	浜野委員	オ 環境等の調和への配慮 いずれの事業においても環境配慮に取り組まれているが、取り組まなければならない根拠等があるのか。	土地改良法にて環境との調和に配慮することが規定されている。	
2	資料3 女川地区	3	浜野委員	カ 事業コスト縮減等の可能性 埋蔵文化財保護盛土材に建設発生土を有効利用することによるコスト縮減金額いかん。	確認して次回技術検討会にて回答する。	埋蔵文化財保護盛土材は、購入土を計画していたが、建設発生土を利用したことにより、およそ135百万円のコスト縮減となった。
3	資料3 女川地区	3	森委員長	キ 地元(受益者、地方公共団体等)の意向 当地区の担い手への農地集積率について、事業開始時は33%、令和5年時点で57%とあるが、最終的な目標は何%となるのか。	計画上の農地集積率は87%となる。	
4	資料3 女川地区	25	根岸委員	(4)耕作放棄防止効果 効果額を算定している対象範囲は、受益地区全体か、もしくは耕作放棄の発生確率が高い等の一定の範囲に限定されているのか。	確認して次回技術検討会にて回答する。	当該効果算定範囲は、事業地区全体を対象としている。
5	資料3 女川地区	25	根岸委員	(4)耕作放棄防止効果 耕作放棄防止効果を見込んでいるが、事業を始めた段階から今日までに耕作放棄地は発生しているか。	事業開始後に新たに耕作放棄地は発生していないと認識している。	改めて確認したところ耕作放棄地は発生していない。
6	資料4 国府川左岸地区	3	森委員長	ク その他 本地区は工期が長くなっており、その中で計画変更を4回行っているが、計画変更の理由としては工期が伸びたことによるのか。	本地区は、農業用水、暗渠排水、農道の3つの事業を併せ行っており、それぞれの事業で受益範囲や事業量等で計画変更が必要な際にその都度行っていることから現時点で4回の計画変更を行っている。 事業の長期化は、狭い市道等へのパイプの埋設について施工上の調整が難航したことが要因の一つとなっている。	

質問・意見総括表(令和6年11月28日 令和6年度 第1回北陸農政局農業農村整備事業等評価に係る技術検討会(補助事業))

	資料及び地区名	ページ	質 問 ・ 意 見		第1回技術検討会における回答	第2回技術検討会における回答
			御発言者	内 容		
7	資料4 国府川左岸地区	28 35	根岸委員	(5)農業労働環境改善効果(農業用水)、(2)営農に係る走行経費節減効果 農業用水改良事業の農業労働環境改善効果として、機械運転作業「開水路をパイプライン化したことにより拡幅された農道を通作」の効果を見込んでいる。一方で、農道事業にて営農に係る走行経費節減効果を見込んでおり、重複していないかどうかについて意見を伺いたい。	農業用水改良事業の農業労働環境改善効果は、労働の質的改善に対して価値化して計上している。一方で、農道事業の営農に係る走行経費節減効果は、流通に係る輸送経費が節減される効果を見込んでいるため、性質が違うので重複するものではないと考えている。	
8	資料4 国府川左岸地区	28	根岸委員	(5)農業労働環境改善効果(農業用水) パイプラインを通したことにより農道が拡幅されたことに伴う労働環境の改善効果を見込むとすれば、農道拡幅に係る費用が総費用に計上されるべきであるが、農業用水改良事業ではこの農道拡幅に係る費用が計上されておらず、効果だけ見込むのはアンバランスと考えるが意見を伺いたい。	確認して次回技術検討会にて回答する。	農業用水改良事業においてパイプラインの埋設により新たな敷地を生み出すことに着目し当該便益を見込んでいたが、路盤部分は農道事業による整備となり、パイプライン埋設のみの評価では車両通行の一部の効果しか発現しないと想定されることから、御指摘を踏まえ、農業用水改良事業において当該便益を除外して今回の再評価を行うこととした。
9	資料5 阿賀野川右岸(1期)地区	19	根岸委員	(5)景観・環境保全効果 ○年効果額算定式 受益範囲世帯数はいつ時点の数値か。	受益範囲世帯数は平成20年時点。	
10	資料6 阿賀野川右岸第3地区	19	根岸委員	(5)景観・環境保全効果 ○年効果額算定式 受益範囲世帯数はいつ時点の数値か。	受益範囲世帯数は平成25年時点。	

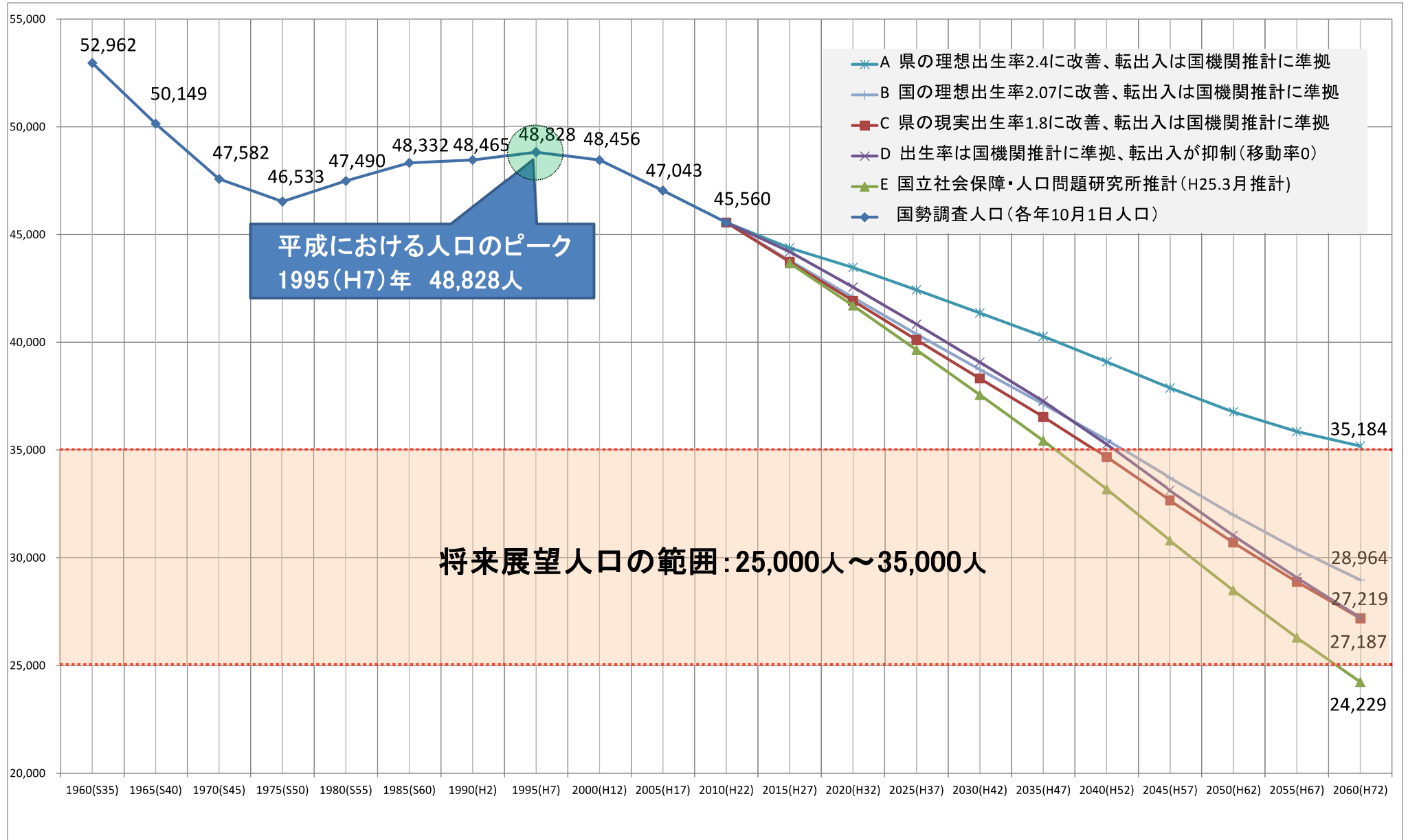
質問・意見総括表(令和6年11月28日 令和6年度 第1回北陸農政局農業農村整備事業等評価に係る技術検討会(補助事業))

	資料及び地区名	ページ	質 問 ・ 意 見		第1回技術検討会における回答	第2回技術検討会における回答
			御発言者	内 容		
11	資料6 阿賀野川右岸第3地区	19	根岸委員	【御意見】 (5)景観・環境保全効果 ○年効果額算定式 受益範囲世帯数の取り扱いについて 評価時点の効果算定に当たり、受益範囲世帯数は変わらないものとして捉えてよいものか。最近は人口減少が問題となっており、最新の世帯数で算定することがよいと思われる。 評価手法マニュアルに基づいた数値で算定しているだろうが、本効果以外の効果については、直近の値を使用し効果算定を行っている。また、国立社会保障・人口問題研究所において、R2年～R32年の間に人口がどれくらい変動するのか推定しており、将来に向かって人口は減少していく見込みである。阿賀野市ではR32に現在の人口の60%となると推定される。R50年まで、同じ世帯数で続くと捉えながら便益を推定してもよいのか本効果算定の考え方について検討いただきたい。	内部で確認・検討する。(参考:阿賀野市人口推計シミュレーション)	御指摘の人口増減の影響について考慮する手法は、将来に影響を及ぼす不確定な要因であり、減少を考慮した場合、当該効果の影響の及ぶ範囲等についても変動する可能性があることから、期中評価については着工時のアンケートを基にした評価にとどめているところ。
12	資料7 亀田郷地区	2	浜野委員	事業工期 令和7年度完了となっているが、令和5年度までの進捗率は75.7%で完了出来るのか。	残事業量からすると令和7年度完了は困難なので、関係機関と調整して工期を延伸する予定である。	
13	資料7 亀田郷地区	3	松本委員	オ 環境等の調和への配慮 本地区の保全対象種はどのように決定しているのか。基準を教えていただきたい。	保全対象種の選定にあつては、現地調査により確認された生き物から、水路～水田のネットワークを代表する生物として、「タモロコ、モツゴ」を対象種としている。	

質問・意見総括表(令和6年11月28日 令和6年度 第1回北陸農政局農業農村整備事業等評価に係る技術検討会(補助事業))

	資料及び地区名	ページ	質 問 ・ 意 見		第1回技術検討会における回答	第2回技術検討会における回答
			御発言者	内 容		
14	資料7 亀田郷地区	3	松本委員	オ 環境等の調和への配慮 全線締切で工事を行う必要があることから、工事施工時は保全対象種を一時的に捕獲し、施工区間から移動させるということであるが、具体的にどのような場所に移動させているのか。	確認して次回技術検討会にて回答する。	捕獲した保全対象種は、全線締切の下流部に移動させている。 参考資料1に締切内の生き物採取状況写真を添付。
15	資料7 亀田郷地区	3	森委員長	カ 事業コスト縮減等の可能性 補強矢板工法とはどのような工法か。	鋼矢板の腐食部分を上部から切断して、新たに鋼矢板を接合する工法である。	【訂正】 鋼矢板の腐食部分に鋼板を溶接する工法である。
16	資料7 亀田郷地区	3	森委員長	カ 事業コスト縮減等の可能性 補強矢板工法からコンクリートパネル補修工法へ工法変更によるコスト縮減額いかん。エ①事業費増分の要因として当該排水路渠底部が軟弱であったことから、その対策工事(固化剤を用いて土壌改良)の追加によるものとあった。コンクリートパネル補修工法へ変更したことにより渠底部の対策が必要になったのであれば、トータルでコストを比較する必要があるのではないか。	工法の比較検討内容について確認して回答する。	コスト縮減額は、当初計画と同じ施工範囲の本所排水路L=2,136m、H2.0mで試算したところ、50百万円であった。 内訳:【当初】補強矢板工法(521百万円)－【変更】コンクリートパネル工法(471百万円)=50百万円 また、増額要因である土質改良(底部改良(バックホウ改良))は、落水後の現地確認の結果、底部が想定以上に軟弱であり、工事用足場を水路内に設置する必要があるため、当初及び変更工法問わず必要である。 【参考】 ・土質改良のm当たり単価 固化材投入＋攪拌＋堆積土砂処理(汚泥処理) 271千円/m(諸経費込) ・添加固化材の数量の根拠 土質試験を実施し、添加量を決定

阿賀野市の人口推計シミュレーション



補強矢板工法 護岸工構造図

断面図

縦断面図

断面図

水路側

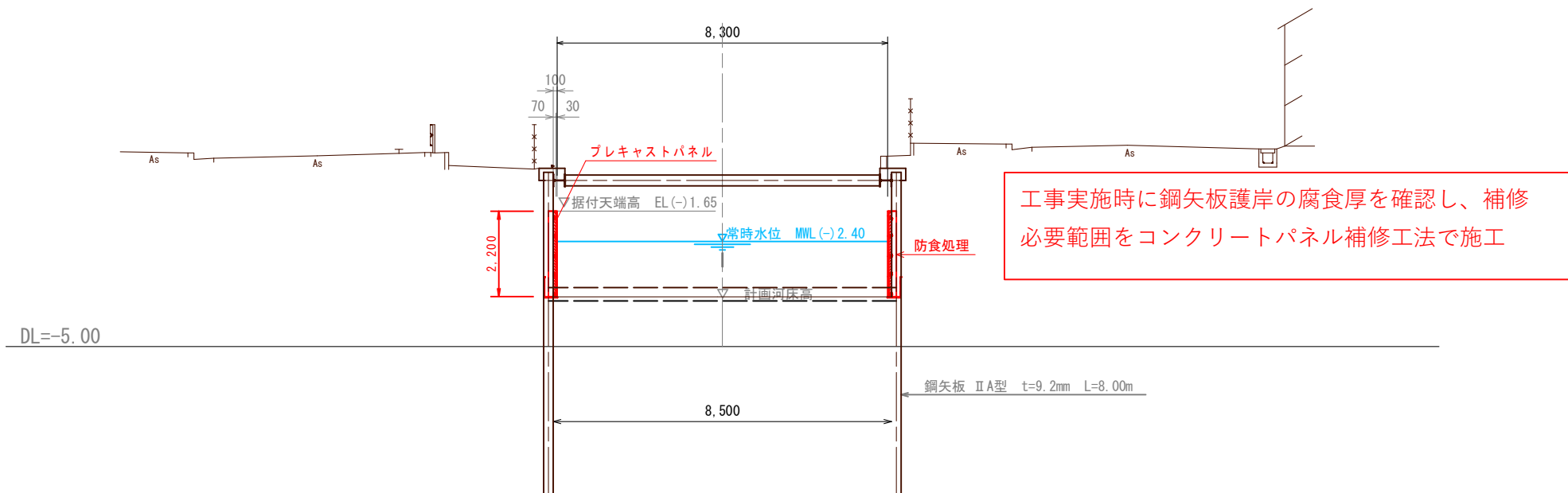
側面図

鋼矢板における顕著な腐食部の位置と必要部材厚が確保されている範囲を確認した後、超高压ウォータージェットを使用して、健全な鋼材面を均一に露出させ、腐食部を跨ぐ形で補強板（平鋼）を溶接接合する。

測量者		設計者	
所長	課長	課長	員
審査者			
事業名		地区名	年度
図面番号		(2)補強矢板工法 護岸工構造図	2-2
計画		全計	年実
調査		調査	変更1
設計		変更2	出来型

コンクリートパネル補修工法(変更)

【本所排水路 標準断面図】



鋼矢板護岸の腐食状況



コンクリートパネル補修工法

